

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 5月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	1491000012
法人名	有限会社 ケアメディカル ことり
事業所名	グループホームこたりの森
所在地	横浜市戸塚区名瀬町613-1 (電 話) 045-814-6072

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 11.83 人	

(2)建物概要

建物構造	木造スレート葺 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2階部分
------	---------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(230,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	— 円	昼食 — 円
	夕食	— 円	おやつ — 円
または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大船中央総合病院、湘南お茶の水クリニック、湘南かさまクリニック、奥田歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は、平成18年4月に開所した2ユニットの建屋であり、「こたりの森」の名称にふさわしく、鳥のさえずりと緑豊かな里山に囲まれた静かな環境にある。
 ◇理念に掲げられている「健康管理の充実」は、経験豊かな看護師である管理者と看護資格のある職員の2名で実践しており、日常の利用者の健康管理と、医療面の対応が充実している。
 ◇医療連携体制加算の指定を受けており、ターミナルケアについても、その都度、協力医療機関と家族、看護師、職員が話し合い、受け入れる体制ができています。
 ◇独自に考案した歌を歌いながら手足を動かす「歌体操」は、日常生活の中でのリハビリの一環として、利用者の活力を引き出し健康の維持に役立っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	・前回の外部評価、改善課題として挙げられた「市町村との連携」については、その後、行政の高齢者支援担当・生活保護担当のそれぞれの部署へ、必要に応じて訪問している。 ・家族介護教室の開催や講師の派遣など、地域との関わりについては今後の課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	・管理者は評価の意義を職員と話し合い、自己評価に当たっては、各フロアの職員間で話し合った結果を、各階のリーダーと管理者間で取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	・運営推進会議には、自治会の役員や社会福祉協議会の代表、利用者家族の代表に管理者が参加して、事業所の課題や行事、運営内容等を説明した後意見交換を行った。 ・会議は、事業所に対する地域の理解や支援を得るための貴重な場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	・家族の意見や要望は、事業所への来所時や、家族参加の敬老会やクリスマス会などの行事の折、直接聞きだしている。 ・要望や苦情を受けた場合は、ケアカンファレンスで迅速に対応して、家族に結果を報告すると共に、事業所の運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	・利用者が、地域の自治会主催の盆踊りやお茶会等の行事に参加している。散歩のとき、地域の方や近隣の農家の方とは挨拶を交わしている。 ・地元の中学校の文化祭に、利用者の手作りの作品を展示し、中学生が、事業所に吹奏楽の演奏に来訪するなど、お互いに交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくために、開所当初から、利用者の「人格を尊重し、健康管理の充実」、「温かい家庭的な雰囲気」で日常生活が送れるように」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を事務所内に掲示し、管理者と職員は毎月行われるケアカンファレンスで、理念に添った支援ができていないかを振り返り、その実現に努めている。 ・特に、利用者の健康管理を大切に、日常の介護・介助に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域住民の一員として、自治会に加入している。 ・利用者が、地域の盆踊りに参加したり、近隣の中学生在が来所して吹奏楽を演奏するなど、地域との交流を深めている。 ・また、散歩時には、地域の方に気楽に声を掛け、近隣の方とのふれあいを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者は評価の意義や狙いについて、また、自己評価の内容について職員に説明している。 ・自己評価に当たっては、各フロアの職員間で話し合った結果を、管理者と各階のリーダーが取りまとめた。評価の結果は、日常の介護に活かすように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、地域の自治会・社会福祉協議会の各代表、利用者家族の代表、地域包括支援センターの方が参加して、平成19年8月から、3ヶ月毎に開催している。 ・会議では、事業所の取り組みや運営状況を説明後、意見交換を行い、地域の理解と協力を得るための貴重な会議となっている。		

グループホーム ことりの森

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者は、利用者の案件で行政の担当部署に出向くほか、事業所の運営や業務上の問題点等を、担当者に報告し、助言や指導を仰いでいる。		
ut					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりについては、家族の来所時に説明している。 ・毎月発行しているホーム便り「ことりの森」には、写真入りで行事内容や、利用者の日常生活を記載している。家族には、金銭出納帳の写しと一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情・相談窓口は、重要事項説明書に明記しており、契約時に説明をしている。 ・運営推進会議や家族の来訪時には声を掛け、家族から意見や要望を聞き、運営面に反映するように努めている。 ・家族の要望や意見は、毎月のケアカンファレンスで話し合い、速やかに対応し改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・開所後2年目を迎えているが、職員の離職はほとんどなく、利用者とも馴染みの関係が築かれ、適切な支援が行なわれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は、介護が人の命を預かる重要な仕事であることを職員に徹底し、日常業務を通じてのOJTや、外部研修で職員の育成に当たっている。 ・研修は、職員の介護技術と感性を高める重要な機会ととらえ、常勤・非常勤の別なく、事業所の費用負担で外部研修への参加を積極的に勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・平成19年度には、戸塚区内のグループホームの連絡会(18事業所が加盟)が、運営推進会議などの情報交換や、護保険法の運用面の指導をテーマに開催した。 ・事業所では、日々のサービスの向上や職員の育成に役立てるため、同業者との協力関係を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者・家族には、事業所見学の折、サービス内容を十分説明し、希望があれば体験入所も行っている。 ・管理者は、入所中の利用者に「新しい人が、寂しくないよう、つらい思いをしないように、やさしく迎えて下さい」と予めお願いし、利用者がスムーズに馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者が、事業所でどのように暮らしたいかを、生活習慣から把握し、思いやりを持ち支え合って暮らすように努めている。 ・職員は、利用者と一緒に買い物や居室の掃除、食後の食器洗い、片付けを行い、また、四季折々の行事や多彩なレクリエーションを通じて、共に楽しみ生活を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は、利用者ごとの担当制を採っており、日々の生活の中で利用者との話し合いの場を多く持ち、気持ちを察知するように努めている。 ・把握した一人ひとりの思いや意向は、カンファレンスで話し合い、介護計画に反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画書は、アセスメント結果を基に、利用者・家族との話し合いを通じて、どのような介護が必要かを把握して、作成している。 ・作成した介護計画書は、カンファレンスで取りまとめている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画書は、通常利用者の状況が安定しているときは、6ヶ月毎に見直しているが、状態が変化した場合は、その都度本人・家族の意向を入れ、結果をカンファレンスで検討して、現状に即した計画書に見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・緊急時は、掛かりつけ医を利用している利用者であっても、職員が、事業所の協力医療機関を紹介している。 ・なお、管理者と職員2名の看護師がおり、安心して24時間医療処置が可能な医療連携体制ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族が希望するかかりつけ医による医療を、継続して受診できるように支援している。 ・事業所には、協力医療機関の内科医が、毎月健康診断に来所しており、予防接種も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・管理者と職員の一人が看護師で、往診の医師の指導のもと、点滴治療や酸素吸入を行っている。 ・過去に、ガンの末期の方を3名受け入れて、終末期における医療処置を行った経緯がある。 ・ターミナルケアについては、本人・家族の意向を把握し、医師と連携して、安心して過ごせるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は、利用者のプライバシーを損なわないよう、その人にあった言葉かけや対応に心がけている。 ・排泄、入浴の介助では、個室やトイレのドアを閉めて人目に触れぬように配慮している。職員は、研修を通して個人情報保護法を理解しており、秘密保持が徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・天気の良い日、職員は、利用者の意向を聞き、体調にも配慮しながら、事業所の周辺の散歩を日課としている。 ・日々の生活が単調にならないように、プランターの水やり、洗濯干し、食器洗いや食器拭き、買い物など、利用者の得意なことが活かせる場面をつくり、一人ひとりのペースや生活リズムを保ちながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立には、近くの農家で採れた旬の食材等を使い、利用者と職員が食卓を囲んで楽しく食事をしている。 ・食後の後片づけ、洗い物など、利用者の能力に応じてできる範囲で職員と一緒に作業している。 ・利用者は、誕生会や季節のイベント食を楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は原則として週2回であるが、夏場は利用者の希望により3回のときもある。 ・同性介助は、職員の構成上完全には実施できていないが、利用者は特に違和感なく入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者は、リハビリテーションの一環として、事業所独自で考案した歌を唄いながら手足を動かす「歌体操」を行っている。 ・枯れ葉で絵模様の作品を作ったり、草花の世話、洗濯物たたみ等、日々の暮らしに工夫を凝らし、張り合いと自信につながるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、里山付近の静かな場所に散歩に出かけている。日光に当たることで体内リズムを整え、睡眠が十分とれるように配慮している。 ・職員と一緒に、食材の買物に出かけ、季節感を肌で感じるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・職員が利用者の行動に注意を払うことで、日中、玄関には鍵をかけずに生活している。 ・各居室には鍵があるが、鍵を掛ける掛けないは利用者の判断に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防災・避難訓練マニュアルがある。平成19年9月に避難訓練を実施している。 ・緊急連絡網を事務所に掲示し、災害時用の飲料水や缶詰、乾物類などの非常食を3日分備蓄している。	○	今後の災害に備えて、消防署の指導の基、地域住民の協力を得、一体となって防災・避難訓練を行う体制の整備を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員が献立表を作成し、栄養バランスや利用者の嗜好を考えながら、美味しい食事作りを心掛けている。 ・糖尿病、高血圧症の方のメニューには、内科医の指導を受けている。 ・毎食後、健康チェック表に摂食量と水分の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・開放感のある明るいリビングの窓からは、近くの里山の四季折々の訪れを感じる樹木が眺められ、玄関やベランダには鉢植えの花が飾られて、居心地よく過せる場所になっている。 ・トイレや洗面所、浴室は清潔で、手すりが完備している。 ・リビングの壁面には、「しっかり食べる」、「よく歩く」など、利用者それぞれが書いた短冊を掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室は、使い慣れた整理ダンスや調度品、家族の写真や仏壇を持ち込み、自分の作品を飾って、一人ひとり個性のある居心地の良い部屋となっている。 ・カーテンは個々に好みのものを取り付けて、その人らしい雰囲気のある居室となっている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	利用者全員が、その人らしく暮らし続ける事は簡単ではありませんが、環境に慣れて楽しんでいただける様に時間をかけて取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話で相談や見学は受け入れているが、役立つことへの取り組みは出来ていない。	○	現段階では、ホーム内の入居者のケアに精一杯で出来ていない。今後の課題として検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行っている。昨年度の結果が出た後、全員で確認し業務の見直しを図った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度、順調に会議は行われており貴重なご意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者支援担当の方々へ連絡や相談をさせていただいている。生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は現在2名。1名は入居後、家族の相談を受け利用開始している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い(どのような事が虐待になるのか等)を職員全員で行い、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに、理念を一番に記載し利用者のご家族に説明しており、重要事項もホーム玄関に掲示している。契約書については、見学・面接・入居時に十分説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付様式の用意はある。現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設内での行事、生活を写真に収め、ホーム便りに掲載し月に一度、家族へ配布している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を行ない、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの中で、職員間で意見交換などを行ない、日々のケアに反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況(通院・役所への送迎など)がある場合には、勤務時間を調整して対応。日中は1人欠勤しても大丈夫な勤務体制になっている。夜間は管理者が緊急時対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がほとんどなく、利用者への影響はみられていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に長年の経験者が多く、認知症研修や相互研修を多々行なってきた。様々な研修の中から個々の職員に応じた研修をうけてもらっている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者との連絡会に参加し、交流の機会を設けている。地域施設の文化祭や作品展などに参加し、ネットワークづくりを行なっている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフにストレスが溜まらない様に、カンファレンスにて充分話し合いをする。飲み会・カラオケを適宜行なっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	カンファレンスでは、全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる状況をつくっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談をさせてもらい、施設の状況把握とともに職員の現状を見てもらい、安心感を持っていただく努力をしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず面談をさせてもらい、様々なお話をお聞きして入居していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで苦情が無い為、事例記録はなし。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの家庭的な生活、共同生活を送れるように本人の出来ることを具体的に検討し、生活の中に取り入れていくようケアしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクや季節に応じた行事などを多くもち、ご利用者、スタッフともに同じ感動や共感を持つように心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日にはレストランでの外食やお花見、バーベキュー大会、敬老会、運動会、クリスマス会、豆まきなど行なっている。又地域の芸術祭、盆踊りなどにも出掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間や外出・外泊も自由でご家族にもいつでも来所して頂ける様にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に来られ、外食や買い物へ外出される。又、年賀状を制作して送る。ホームでのイベント・パーティーにはご家族を招待している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れるような、環境を保てるよう、常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮するリレーなどを行なったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的にスタッフやご利用者に会いに、お花を持ち遊びに来られたりされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を傾聴し、日常生活の中から出来ることを定期的なカンファレンス会議にて対策を検討している。	○	認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、これからも行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をスタッフ一同で定期的に作成し、ケアの方針を立てるのに役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的に作成した24時間アセスメント表をもとに、身体・精神状態に考慮したプランを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の業務時・カンファレンス時にスタッフ全員の意見を傾聴し、プランに盛り込んでいる。又作成した書類は所定のファイルに保存し、いつでもスタッフが確認できるようになっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度カンファレンスを行い、ADLの向上や精神状態の安定を細かく話し合い、現状にあったケアを作成している。作成したケアプランを家族に送付している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後、時間ごとに個々に記録している。毎日のレクを中心に具体的に記録し介護に繁栄させ、介護計画の作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族との外出、外泊は自由である。面会時間もご家族の好きな時間に対応している。通院、入院時の対応も行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの特別養護老人ホームの芸術祭等に出掛け、徘徊者に対しての協力体制について話し合いをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターからの相談・ケアプラザのケアマネの方々より入居に関しての相談や家族への見学等も行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター、ならびに区役所の相談員の方にも関わってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診、2週間に1回の処方、検査も定期的に行ない常に医師との連絡も出来る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月に一度、医師が往診し、個々の利用者対医師のコミュニケーションを持てる時間を作り、利用者の精神面、体調の変化に対応してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が2名(管理者・職員)おり、日々の観察・申し送り事項から、利用者の健康管理に勤めている。緊急時にも随時連絡体制が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から医師との話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに癌の末期の方を3名受け入れ、終末期を送っていただいている。医師の往診と連携で点滴治療や酸素なども行なっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	受け入れ時より、重度の方は職員全員で今後の変化について話し合い、医師より指導いただき最後まで支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の面談にて、本人に係る保険医療福祉関係や家族などと十分な情報交換をした上で、入居する事のダメージを最小限に食い止める方法を考え、安心して入居して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々にあった言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接している。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩へと促す際に気持ちが良い、足のリハビリになりますよ等、色々な声掛けをしている。個人の誕生日には希望を聞き入れ外食やメニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めていただくこともある。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	植物への水遣り、洗濯物干し、食器洗いを自ら手伝って下さる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1～2回の美容師の訪問があり、希望にあったカットやヘアカラーを行なっている。洋服の訪問販売も利用し、自分の目で好みに合ったものを購入してもらっている。居室担当者が身の回りのお手伝いを行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間もゆったりとしている。食べる時の姿勢などにも気配りする。介助の必要な方には横で職員が付添っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時に居室担当者が購入し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツ・パット等が必要になった時は、説明を充分に行い声掛け・誘導・見守りにて介助している。汚染が無い時は「すごいね」「よかったね」等の声掛けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けて見守りをしている。又、夏場は希望にて週3回の入浴としている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけている。外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付け、夜間良く眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、本人のしたい事等出来る事には参加して貰っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居中の方では1人ですが、自己管理しています。洋服屋さん等が来所された時は自分で支払っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、午前中の散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。又近隣の行事、催しに積極的に参加するように心がけている。一人ひとりに声かけし、参加者を募っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者との日々ふれあいの中から、希望を把握するよう努力している。外出・外泊・墓参り等行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の取り次時、他入居者への影響を考え居室にて話して頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限なく、家族訪問時の挨拶やお茶・コーヒーをお出しすることを必ず行ない、気軽に来ていただける雰囲気をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵に関して、ご家族の同意を得て転落防止のために行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を使用せず、いつでも出られる事を話している。居室に外から鍵は掛けられないようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々にあった言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接するようしている。清潔を心がけ、見守り、声掛けをしている。楽しく食事が摂れるよう話題を提供する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険がない範囲内で、個々の状態に応じて対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ほぼ毎日看護師が出勤しており、ある程度の対応は出来る。緊急時はマニュアルに添って全職員が対応できる状態である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のカンファレンスや日々の申し送りの中で、必要に応じて行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難方法の体制・マニュアルは出来ている。	○	地域の方々との協力体制の確立に努力していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時より個々の疾患・ADLより起こり得る事柄を、ご家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りノートに入居者の変化、異常がある場合は、記録し全ての職員が内容を把握できる体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護婦が行なっている。利用者名ごとに朝・昼・晩・眠前と分けており、日にちも記入して解かり易く管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、体操・散歩などで身体を動かしていただいている。又、ヨーグルト・食物繊維の摂取を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後職員の見守りの中、入歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等なるべく、ご自身で出来るよう支援している。又AM・PMに一回づつインジナージェル使用してうがいを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態の変化時、水分チェック表で状態を把握している。毎日食事摂取量をチェックしている。栄養士に食事チェックの助言は得ていないが糖尿病の方がおり、内科医にチェックして頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員と利用者の予防注射を義務化し、感染予防を心がけている。又毎入浴時に皮膚状態を確認し疥癬予防等も実施している。(塗布処置)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スタッフの目の付く冷蔵庫に貼ってある。問題がある度にマニュアルを作成し、貼り出して申し送りされる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はカギを掛けていない。表札は木製で手作りの物で温かみのあるものにしている。花は一年中きらず事無く植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の札も全て手作り。調度品は明るく・温かみのある物を揃えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に畳・カーペットを敷き、ソファでくつろいでいただいている。又、テラスには縁台を置き自由に外を眺めていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない協力してもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除等をこまめにする事で換気につとめ、空調も季節に応じた調整をスタッフ、入居者と話し合っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースには手すりを設置済み。浴室にはスベリ止めマット・シャワーチェアを用いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室入り口には、目立つ位置に・見た目が温かい印象のネームプレートを付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1Fウッドデッキ・2Fベランダには花を豊富に育て、入居者の方々に水やりをしてもらっている。全員が腰を下ろして日光浴が出来る縁台を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム ことりの森

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月行なっている季節感のある行事。利用者・職員が準備段階より熱心に取り組んでいる。
- ・毎月作成し、ご家族にお送りしている『ことりの森たより』。行事を中心に利用者の方々のご様子を写真入でお伝えしている。
- ・職員の離職がほとんど無い為に、顔なじみの安心した雰囲気ができている。
- ・表札をはじめ、ほとんどの物が手作りで温かみのある空間づくり。
- ・リビングから見える自然の景色・絶やさずに植え続けている色とりどりの花。